

PICK UP!

事業の取組紹介

これまで、女性研究者がライフイベント（出産・育児・介護）と研究を両立させるため、さまざまな支援や取組を行ってきました。

ニュースレターは、ホームページでもご覧いただけます。
URL <http://genderkyoten-ku.jp>



(1) 女性研究者育成意識の向上に関わる取組

- シンポジウム・フォーラムの開催
- 「女性研究者交流会」の開催

(2) 女子学生のキャリア意識の形成に関わる取組

- ジェンダー科目の開講
- 事業の広報・推進活動
- Web サイトにおける女性研究者情報の発信
- 「熊本県女性研究者ロールモデル誌」発行・配布
- News Letter の発行

(3) 福祉サービスコーディネート事業

- 女性研究者のニーズ調査
- 病児・病後児保育事業
- NPOと連携した介護相談や研究会の実施



介護研修会

(4) 女性研究者研究力向上に関わる取組

- 共同研究支援
- 女性研究者の研究再開支援
- 学会参加旅費、論文投稿や校閲の費用支援
- 研究補助者雇用支援



ジェンダー集中講義（ワークショップ）



(写真はデータベース分野の国際会議 ACM SIGMOD 2015 でのチュートリアル講演の様子)

REPORT

時系列データマイニングの研究を通して社会貢献を目指します

企業との共同研究支援を受けた **松原 靖子** さん
(熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻助教)

同研究科の櫻井保志教授のもとで大規模時系列データのモデル学習と将来予測に関する研究に従事しております。具体的には、医療・センサ、Web データを始めとする様々な時系列データを対象とし、それらのビッグデータの中から意味のある重要な情報を取り出すモデルの提案や、将来の動向を予測するアルゴリズムの開発を行っております。熊本大学に赴任してからは、企業連携、海外研究者との共同研究も活発に行い、充実した日々を送っています。今後は熊本大学を拠点とし、櫻井先生、そして櫻井研究室の素晴らしい学生さんと共に、世界的に評価される優れた技術を発信していきたいと思ひます。

予告 第4回 女性研究者交流会

「フランスに来て21年、母親、グループリーダー、そして外国人として」

講師 おだ れいこ
小田 玲子 氏

日時 平成28年3月1日(火)
午後1時～2時45分

会場 熊本大学政策創造研究教育センター4F 講義室
黒髪南キャンパス(熊本市中央区黒髪2-39-1)

参加費無料
(定員20名)

フランスのボルドー大学/CNRS(フランス国立科学研究所) 常勤研究員の小田玲子氏が、国際共同研究室開設キックオフシンポジウムの講演・人材交流促進のため熊本されます。海外で活躍されている女性研究者のお話をぜひ熊本でも！という事で、女性研究者研究活動支援事業(拠点型)では交流会を企画しました。

小田先生のご専門は物理化学。現在、研究ディレクターとして国際ラボの仕事に従事されています。キャリア形成のエピソードや現在の研究環境等についてお話しいただいた後、参加者との質疑応答・意見交換で交流を深めます。これからキャリアを築こうとしている学生・大学院生から若い女性研究者の皆様と小田先生の経験談をシェアしながら、少人数で気軽に交流できる貴重なチャンスです。男性研究者の参加も歓迎いたします。

アフタヌーン・ティと共に、実りある時間を過ごしませんか。

おだ れいこ 小田 玲子氏プロフィール

1988	東京大学理学部卒
1994	MIT マサチューセッツ工科大学理学部 物理学科で PhD 取得
1994	ルイバスツール大学(仏・ストラスブール) でポスドク
1998	ボルドー大学の IECB (ヨーロッパ化 学生物研究所) グループリーダー
2000～	同時にフランス国立科学研究所 (CNRS) 常勤研究員
	専門は物理化学で「脂質系分子集合体の研究」

お問い合わせ・お申し込みは下記の拠点事務局まで

編集・発行

熊本大学 男女共同参画推進室

TEL/FAX 096-342-3281

「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」事務局

TEL/FAX 096-342-3976

e-mail: kyoten@kumamoto-u.ac.jp



熊本大学は「共に生きる環境づくり」に積極的に取り組んでいます。

熊本大学は、平成18年度から全学的な男女共同参画推進を図っています。この目的を達成するため、本学は、全職員、学生等の意識改革に努め、平成19年3月26日に策定した「熊本大学男女共同参画推進基本計画」(期間 10 年)の実現に向け具体的な取組を推進しています。



Choice is ours in every moment.



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」

News Letter

新春号
2016.1

ご挨拶

熊本大学 副学長(男女共同参画担当) / 男女共同参画推進室長 **山縣 ゆり子**

日頃より、男女共同参画推進にご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。平成25年秋から実施している「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」は今春3月で終了です。この事業を通して、多くの女性研究者、女子学生がとっても元気に頑張っている姿を見ることができ、頼もしく思っています。本事業では本学が拠点となり大学コンソーシアム熊本(コンソ)と連携して取り組んでまいり、各高等教育機関でもいろいろな成果が生まれています。4月からはコンソの地域創造部に「男女共同参画推進連携委員会」を設置し、県内の各機関が連携して多様な人材が活躍できるよう活動していく予定です。益々の活動の発展のためにも忌憚のないご意見をお寄せくださいましたら幸甚です。



女性研究者研究活動支援事業(拠点型)シンポジウム 「グローバル共生社会～女性リーダーを育む環境を考える～」開催

平成27年10月26日、大学コンソーシアム熊本との共催で、「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)シンポジウム」を熊本学園大学高橋守雄記念ホールで開催しました。

詳細は中面へ



女性研究者による 共同研究支援事業報告会を開催



平成27年12月8日(火)

本報告会は、本学で初めて研究分野の異なる女性研究者が一堂に会しての研究発表の場ということで、研究者のみならずポスドクや大学院生・URAなど約80人が参加し、研究内容・発表内容ともにレベルが高いとの評価を得ました。

原田信志学長の主催者挨拶に続き、平成25～27年度にかけての事業期間中に新たに共同研究をスタートアップし、支援を受けた10グループの代表者が、共同研究のきっかけや成果・研究の意義について発表、予定の時間を過ぎるほど質疑応答が交わされました。最後に、研究・社会連携担当の松本泰道理事と山縣ゆり子副学長が総評を行い報告会を終了。その後も、女性研究者同士が意見交換をしたり、当日参加できなかった被支援者3グループが掲示したポスター発表を熱心に見入る姿があり、今後さらに新しい共同研究が生まれることを期待させる会となりました。

研究発表分野

建築環境工学 プロテオミクス 生涯スポーツ福祉 神経精神医学
地球環境科学 薬理学 電子材料 生化学 情報学 生活科学

共同研究の相手先

九州ルーテル学院大学 熊本県立大学 熊本保健科学大学 尚絅大学
崇城大学 株式会社電盛社 ナカヤマ精密株式会社



参加者からのアンケートより

- ・「日ごろ接することのない異分野の研究を多数まとめて聞けてとても有意義だった」
- ・「多くの女性研究者が学内で活躍されていることが分かり、自分も頑張らなければという気持ちになった」
- ・「女性研究者の情報交換の機会として大変貴重だった」

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）シンポジウム 「グローバル共生社会～女性リーダーを育む環境を考える～」開催

PROGRAM

開会挨拶

原田 信志
(熊本大学長)

来賓挨拶

柿田 恭良 氏
(文部科学省人材政策課長)

幸田 亮一 氏
(熊本学園大学長／
大学コンソーシアム熊本代表理事)

基調講演

パネルディスカッション

総 評

山村 康子 氏
(科学技術振興機構JST)プログラム主管)

閉会挨拶

山縣 ゆり子
(熊本大学副学長)

基調講演 「女性リーダーの活躍～ドイツと日本の比較～」

講師：ミラ・パウアサックス氏 (ドイツ研究振興協会日本代表部 代表補佐)

ドイツ研究振興協会はドイツ最大の公的研究助成機関として男女共同参画事業も強化支援している。ドイツにおける学術研究分野における女性比率は増加していて、大学生では男女比率がほぼ均衡状態である。一方、大卒者の51%が女性であるにも関わらず、女性教授職はわずか20%にとどまっており、キャリアステップが高くなるほど、格差が開く「ハサミ形状構成」が続いていることが示された。EU加盟国においても、女性には「ガラスの天井(キャリアを妨げる障壁)」だけでなく、「マタ壁(産休・育休・育児に対する差別や障壁)」もある。まだまだ男性中心社会の中、男女共同参画を推進するには、政策や雇用条件等で女性のキャリアを引き続き支援していくことは必要であると強調された。



ドイツ研究振興協会はドイツ最大の公的研究助成機関として男女共同参画事業も強化支援している。ドイツにおける学術研究分野における女性比率は増加していて、大学生では男女比率がほぼ均衡状態である。一方、大卒者の51%が女性であるにも関わらず、女性教授職はわずか20%にとどまっており、キャリアステップが高くなるほど、格差が開く「ハサミ形状構成」が続いていることが示された。EU加盟国においても、女性には「ガラスの天井(キャリアを妨げる障壁)」だけでなく、「マタ壁(産休・育休・育児に対する差別や障壁)」もある。まだまだ男性中心社会の中、男女共同参画を推進するには、政策や雇用条件等で女性のキャリアを引き続き支援していくことは必要であると強調された。

パネルディスカッションテーマ

「ガラスの天井を破るフレックスルーの方法を考える」～202030実現のために～

コメンテーターノミラ・パウアサックス 氏
コーディネーターノ岸田 光代 (熊本大学学長特別補佐・男女共同参画コーディネーター)

パネリスト

株式会社肥後銀行

甲斐 隆博 代表取締役頭取

肥後銀行は、役職者における女性比率を2020年3月までに20%以上へ引き上げることを目指している。キャリア形成のため渉外係等へ積極的に配置し業務分野の拡大を図っている。社会全体の課題として、女性の社会参画を優先的に進め女性の能力形成を後押しすることが重要。例えば企業では、人事考課の項目に男女共同参画の視点を取り入れたり、評価する側が性別ではなく能力で評価する意識が必要。さらに女性本人の意識改革やリーダーになるとい



う腹積もりも不可欠である。ワークライフバランスを推進するためには、家庭を形成する夫婦の問題意識と、企業側がそれをどう捉え対応していくかが大切である。女性の活躍推進は企業の経営を左右する重要なテーマとして認識している。

熊本県環境生活部県民生活局

中園 三千代 局長

熊本県では、性別に関わりなく能力を活かす適材適所の配置や妊娠出産が不利にならないよう配慮をしながら女性の登用を進めている。今後は、女性活躍推進法の制定を受け、行動計画を立てて取り組んでいく。私見としては、管理職養成を視野に入れた研修の実施や、出産によるブランクを気にせず



に休業し復帰できる体制の整備・充実、女性の社会参画を進めるなら男性の家庭参画も必要であり、固定的役割分担意識の解消は必須と考える。

また、熊本県の女性管理職比率は全国42位であるが、上位を見ると、1位3位が東京、神奈川である以外、2位鳥取、4位5位は新潟、香川である。決して地方だから女性登用が難しいとは言えないと思っている。

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

崇城大学

中山 峰男 学長

喫緊の課題は、理系学部的女性教員を増やすこと。そのために、女子学生が研究に進むことが必要である。女子学生の占める割合は年々増加し、現在3割を超えた。今後、この傾向は続き、半数近くになると予測している。大学に進学する割合は、女子の方が高まっている。問題は、研究職に進むかどうか。博士課程に進学するような道筋を作っているところである。現在、教員公募では女性研究者の応募が少ないが、将来的には、女子学生を育てることで、女性研究者・教員が増えると考えている。奨学金による海外留学に応募する者のうち7割は女子、あるいは様々なプロジェクトにおけるリーダー的活躍も女子学生である等、現状を見ると女子学生が非常に積極的である。



喫緊の課題は、理系学部的女性教員を増やすこと。そのために、女子学生が研究に進むことが必要である。女子学生の占める割合は年々増加し、現在3割を超えた。今後、この傾向は続き、半数近くになると予測している。大学に進学する割合は、女子の方が高まっている。問題は、研究職に進むかどうか。博士課程に進学するような道筋を作っているところである。現在、教員公募では女性研究者の応募が少ないが、将来的には、女子学生を育てることで、女性研究者・教員が増えると考えている。奨学金による海外留学に応募する者のうち7割は女子、あるいは様々なプロジェクトにおけるリーダー的活躍も女子学生である等、現状を見ると女子学生が非常に積極的である。

熊本大学

原田 信志 学長

中間職の女性の割合を増やし、同時並行でリーダーとしての能力開発・育成を行う。大学においては、女性のみならず男性もリーダーの育成が重要視されている。加えて意識改革が非常に重要で、ワーク・ライフ・バランスという事に尽きる。教員公募に応募してくる女性が少ない中、ポジティブなインセンティブなしでは現状維持にとどまる。熊大では第三期中期目標の女性割合を18%に設定しているが、4月から各部局の行動計画をたてる際、女性の割合についても、年次的に具体的な数字で増加率を出すようにと指示している。その中で、部局で女性教員を採用すれば、学長の手持ちポジションを還元するなどして、可能な限りインセンティブをつける努力をしたい。



参加者のアンケートより

- ・ワーク・ライフ・バランスが日本と似ているドイツの現状、支援組織について情報を得られて有意義だった。参考となる取組をすぐに導入できるのではと思った。
- ・活躍する女性たちは、自分の考えをきちんと持っていることでリーダーとして活躍できることを実感させられた。
- ・女性が仕事と育児を両立する際、自分にもリーダーになれる可能性や資質があるのだと思える研修やセミナー等が必要で、とにかくロールモデルを作る事が大事だと思った。
- ・「ドイツの研究職における女性割合向上のための施策を聴けて、日本の女性活躍推進施策の参考になった」「男性中間管理職がこのようなシンポジウムに参加すること、参加を促すような取組みが必要だと思った」「女性自身の意識改革も大切なことが分かった」「各界のトップが集まって意見交換したことが有意義だと思った」等、関心の高さがうかがえる多数の意見が寄せられました。



◀ JSTの
山村康子氏
▼ シンポジウムの様子



連携して取り組む大学コンソーシアム熊本

「大学コンソーシアム熊本」の地域創造部内

女性研究者支援ワーキンググループ (WG) は、

「男女共同参画推進連携委員会」としてコンソ加盟の

高等教育機関や行政と連携し、今後も積極的に活動を推進していく予定です。

また、WGがこれまで取り組んだ事業を踏まえ、定期的な会議の中で議論してきた内容を「提言」としてとりまとめています。男女や職種を問わず、多様な人材がさらに活躍できるよう、地域の男女共同参画社会の実現を目指しています。ご期待ください。



男女の機会均等と ワーク・ライフ・バランスの実現

採用、昇進等の機会の平等

育児・介護等のライフイベント
時における支援の充実

ワーク・ライフ・バランス定着
のための基盤整備

相談、救済システムの整備

次世代育成も念頭においた
男女共同参画の普及啓発

各コンソ加盟機関は、男女共同参画推進に係るポリシーの明文化、具体策の計画・実行及び評価を行う。そのための体制づくりに努める。

提言 イメージ図